

令和4年3月31日

専門学校社会医学技術学院
学院長 殿

学校関係者評価委員会

令和3年度学校関係者評価委員会報告書

令和3年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1. 学校関係者評価委員（アイウエオ順）

- 岩谷 清一（実習地・医療法人社団 永生会 永生病院・作業療法士）
- 大石 洋人（就職先・河北医療財団 多摩事業部 天本病院 理学療法士）
- 大関 健一郎（養成校・帝京科学大学医療科学部作業療法学科・作業療法士）
- 田村 浩子（自治体・小金井市保健福祉部 介護福祉課 包括支援係）
- 西本 典良（卒業生・医療法人コマクサ会虹の森 理学療法士）
- 濱野 智徳（地域・濱野智徳公認会計士税理士事務所）
- 森川 美智恵（高等学校・東京都立調布南高等学校進路指導担当）

2. 学校関係者評価委員会の開催状況

第1回委員会 令和3年9月22日（会場 ZOOMによるオンライン開催）

第2回委員会 令和4年3月16日

（会場 社会医学技術学院、およびZOOMによるオンラインのハイブリッド開催）

3. 学校関係者評価 結果報告

別紙のとおり

学校関係者評価報告書(令和3年度)

評価項目	評価 (コメント)
<p>基準1 教育理念・ 目的・ 育成人材像</p>	<p>① 新カリキュラムの実施や、COVID-19によるオンライン授業の検証が必要だと思えます。また、その検証結果を実習先の担当者等と情報共有し、双方で学業の進捗状況やメンタル面の状況などを把握した上で実習を進めることでより良い実習へと繋がると思えます。 また、医療・介護現場でも COVID-19の影響で、働き方に変化があります。学校・就職先の双方で育成人材像の擦り合わせなども必要だと思えます。ここ数年で異職種への転職を希望する若手療法士を散見するようになりました。</p> <p>② 基礎力養成講座が新規で始まり、その効果はまだ見えない部分と思えますが、今後も現状の課題を少しでもクリアできる仕組みづくりをお願いしたい。一番大切なことは思考力だと感じています。言われるままに動くのではなく、主体的に動ける、また、自身で調べ、考え、行動する力が必要と思っています。</p> <p>③ 教育理念、育成人材像はよいと思えます。特に専門性のみが強調されず、それ以前に「人に寄り添い生きることを支える」ための専門性であることが明瞭にされていることは素晴らしいことと考えます。 また、基礎力養成講座への取り組みはコロナ禍のなか、難しい側面もあったとは思いますが、今後その実践に大きく期待します。 実習教育は専門職教育において極めて重要であろうと思えますが、「実習目標の設定にあたって臨床実習施設の参画・・・」は重要な視点と考えます。ぜひ実現していただければと考えます。 職業実践教育の一環としての卒業生による担当授業の拡大もよいアイデアと考えます。また、多職種連携を想定した授業については是非実際の看護や介護職、ソーシャルワーカーなどの多職種に出会い、話を聞く機会を一度は設けていただきたいと考えます。 社会のニーズとの関連でいえば、現場にいと PT,OT のみがリハをすすめるための専門職ではないことを痛感します。上記、多職種連携とも関係しますが、それぞれの現場に応じ、さらに他の職種からの期待にどう応えていけるのかという視点が必要と考えます。PT や OT が単に身体や運動の専門家というだけでなく、リハビリテーションをすすめる専門家であるという観点を貫いていただきたいと考えます。</p> <p>④ 設立50周年に向けて、伝統を重んじつつ、現代に適応できる専門家の育成をお願いしたい。</p> <p>⑤ 重点目標に沿い、具体的な取り組みを掲げ取り組んでいると思えました。専門的な知識・技能を習得し、国家試験合格後がスタート地点だと思えます。仕事に就いてから必要となる力、学び続ける意欲を育成することが大切だと思えます。母校の精神を共有し、その精神を母校と連携して広げていくことのできる人材の育成を望みます。また、社医学のスピリットをキャッチフレーズにして、「～な社医学」「～の社医学」と言われる(呼ばれる)程のスローガンを掲げてはいかがでしょうか。</p>

<p>基準 2 学校運営</p>	<p>① 情報システムにおいて、業務の効率化が図れていることは素晴らしいと思います。今後の改善方策にあるように、情報システムの健全化の健全性の検証、適切な情報の更新、情報漏洩防止は取り組むべき課題だと思ひます。</p> <p>② 組織として人事・給与制度や情報システムなど様々な部分で適切に学校運営がされていると思ひます。</p> <p>③ 就業規則等や会議の規程に関しては、リモートワークに対応したものに変える必要があります。「諸会議を WEB 開催できる」旨の文言が規程に入っていることを確認すると良いと思ひます。</p> <p>④ 長くにわたり円滑に運営されてきたことに満足せず、社会情勢等の変化に即した対応をしていく視点を常に持ち運営されていると思ひました。</p> <p>⑤ 社会が大きく変わっていく中、専門学校に求められている教育力も変わってきていることもあるかと思ひます。報告書の中で言及されている「時代に即した適応、改革」を推進していただければと思ひます。</p>
<p>基準 3 教育活動</p>	<p>① 国家試験合格への対策の原因、分析、対策が必要だと思ひます。また、対面で行う実技授業の補足が必要だと思ひます。特に COVID-19 に影響された卒業生は、卒業後のオンラインでの集いの場や実技勉強会の場があっても良いかも知れません。</p> <p>② 厚労省の基準をクリアすればよいということではなく、PT などの専門職になるにあたって必要な知識や技術、基礎的な学習や礼節や接遇などあらゆる分野を踏まえた教育システムを検討していただきたい。</p> <p>③ 授業評価の結果を踏まえながら、厚生労働省の指導を下に、新型コロナ感染の対策をしつつ工夫をして実施していると思ひます。</p> <p>④ 「学年ごとの到達目標の明確化」は重要と考えます。実習教育も含めそれぞれの学年ごとにどのように学生に成長してもらいたいのか、何を学んで欲しいのかを明確に提示することは、学年進級制を意味あるものにする重要事項と考えます。</p> <p>学生による授業評価は重要ですが、その活用方法に留意する必要があるように思われます。学生による評価が高いことがすなわちいい授業であるとは限らず、評価結果の活用方法に工夫と配慮が必要に思われます。</p> <p>⑤ アフターコロナの教育活動において、WEB 講義の導入など、コロナ禍の経験を活かす施策が必要です。</p> <p>⑥ コロナ禍での教育活動はご苦勞が多いことと存じます。特に実習指導に関しては、学生自身、思うように技能を習得することが難しいと感じているのではないのでしょうか。卒業後の職場での研修会も開催が難しいとなれば、悩みを抱える学生も多いと思ひますので、在学中のできる限りの能力の育成をお願いいたします。</p> <p>また、例えば、社医学独自の教育活動やその成果を図るものさし、つまり、社医学独自のカリキュラムから授業内容・方法とその評価・方法、国家試験まで含めたきめ細やかな指導で、一人ひとりの実力を養成することのできるシステムがあるとするならば、それを『社医学メソッド』として校内だけでなく対外的にも示すことができればアピールポイントになると思ひます。</p>

<p>基準4 学修成果</p>	<p>① 作業療法学科の国家試験合格率向上の取り組みが必要だと思います。学年毎到達目標の明確化とその対応は有用な取り組みだと思います。</p> <p>② 就職率や国家試験合格率もひとつの学修成果であるが、学生のうちに取得可能な資格、例えば住環境コーディネーターなど、臨床に出てから活用できる資格の取得なども検討していただきたい。</p> <p>③ 本来の学習成果は教育目標の到達点としての評価であるべきと考えます。具体的に何をどう評価するかは別としてもそういった視点も必要かと思われます。</p> <p>④ 理学療法士・作業療法士の国家試験は難しい中、合格率向上に向けて個別指導等も行なうなど丁寧な対応を行っていると思います。</p> <p>⑤ 都内の高校生の立場で考えた場合、都内の競合する学校、大学等との比較も、生徒や教員側の学校選択の上で重要だと思われます。他にどのような実力を養成できたのか、他と違った付加価値を学修成果として考えられないかと思います。</p>
<p>基準5 学生支援</p>	<p>① メンタル面などの対応を各担任だけでなく、別窓口を設け、カウンセラーや医療機関が対応していることはとても良いサポート体制だと思います。学校外での実習では学生のストレスは大きくなりやすく、学校に比べサポートも十分にできない可能性があります。実習前には今まで以上に情報交換を実習地と学校間で実施することや、問題発生時の対応方法などを、具体的に共有しておくことが必要だと思います。</p> <p>② 例年に比べ学生相談件数の増加傾向であり、多くがメンタル的な内容であることは大きな課題と感じる。就職先の施設として、学生相談に我々が対応できないかを検討してみたいかでしょうか。勉強方法や成績不振などは臨床現場からの視点で、メンタル相談は人生の先輩としての視点で対応することも可能ではないでしょうか。</p> <p>③ メンタルの問題では、以前は背景に成績の問題が多かったと思うが、最近の社会状況から生活基盤の問題からくるストレスも多くなっていると思う。そのあたりも、具体的な対策を指導できれば学生は助かると思います。</p> <p>④ とくに以前に比べ職業意識の乏しい初年度にどのような職業意識を育成していくのかという意味では基礎力養成講座もその一策になるように思います。具体化と継続を期待します。</p>
<p>基準5 学生支援</p>	<p>⑤ Covid-19の感染拡大により、通常の対面授業等ができず、オンラインでの授業となり、孤独・不安を感じている学生も多いと思われるので、学生相談等より相談しやすいものになるとさらに良いと思います。</p> <p>⑥ 一人ひとりの学生に目を行き届かせることはとても大変なことだと思いますが、カウンセラーとの連携も図りながら、学院内での情報共有を密にされフォローしていただければと思います。</p> <p>また、奨学金制度に関しては、引き続き多くの医療施設との連携を取られることを望みます。</p>

<p>基準6 教育環境</p>	<p>① 学院内でのクラスターがなかったことは、様々な感染制御対策の結果だと思えます。ラウンジや図書室の使用が制限されているとのことですが、段階的に使用できるように緩和の検討をお願いします。主体的な学習の場の提供はもちろん、学生の交流機会の確保もメンタル面のフォローや卒後の関係性を築く上でも大切だと思えます。</p> <p>② 院外学習の一環として、学生でも参加可能な学会や地域のイベント情報などを共有するとともに、それに参加するメリットや意義を伝え、より広い視点や学びの機会を得ていただきたい。</p> <p>③ 指定規則改定による物品や部屋などの購入や調整が大変な時期である。また、天候や社会情勢の問題で、実習関連会議も予定通りに行えないことも最近は多くなっている。必要に応じて、アナログからデジタルへの移行をしていく必要があるでしょう。</p> <p>④ 専門学校としては教材や図書は充実していると考えます。可能であれば軽食の提供できるカフェなどがあればいいですね。</p> <p>⑤ リモート講義は学生側の WEB 環境に左右をされてしまう面があります。十分な WEB 環境のない学生のために、学校の施設を開放したり、学生が学校でもリモート講義を受講できるブースを運営したり、サポートが必要と考えます。</p> <p>⑥ 最新の理論の学びと設備の設置は、学生にとって魅力的だと思えます。オンラインを活用しての、教員と学生間、学生同士の交流の場などが作れたら悩みも軽減するのではないかと思います。仕事の対象が治療を必要としている人、高齢者、障がい者の方が多いとも思いますので、明るい風通しの良い雰囲気づくりを心掛けてはと思います。</p>
<p>基準7 学生の募集と受入れ</p>	<p>① 昨年度は実施できなかった作業療法学科の応募者増に向けたイベントを市中感染の状況等を見ながら進めていただきたいと思えます。作業療法は一般的にはあまり知られていないため、高校への説明会のみならず、中学校などでも学生や先生、保護者向けに説明会をするといいと思えます。大学に比べ学費が安く、昼間に医療・介護施設で働き、卒業後、実践能力の高い人材を育てられる学校であることは、他学校にない大きなメリットです。</p> <p>② 高校生が進路を考える時期に PT などの説明を学生にすることが望ましいと感じている。高校生のアンケートによると高2の4月～6月が一番どんな学校があるかを考え出す時期とのこと。そのタイミングでのガイダンス開催ができるといいのではないかと。</p> <p>③ コロナ禍の中最も困難であった課題と考えます。高校生の学校の選び方は想像以上に保守的です。入学テストの簡易化、できるだけ早く決めてしまいたい傾向など、どの程度受け入れられるかという問題もありますが、あらためて、より現実的な受験生の動向を把握する必要があると思われまます。</p> <p>④ 国家試験の合格率を向上させることが、募集と受入れに好影響をもたらすと思えます。景気後退により資格取得の意欲は強まるはずなので、今がチャンスだと思えます。</p> <p>⑤ 作業療法士という職種は、普段の生活の中で関わるのが少ないのでイメージしにくいと思われまますが、生活に密着したやりがいのある役割だと思うので、対面以外の方法で周知できると良いと思えます。</p> <p>⑥ 資格取得を希望して入学することを考えると、難しいことではしょうが、国家試験合格 100%が前提だと思えます。進学意欲を高める要因の一つは、学生と学院の生き生きとした活動、表情だと思えます。学院内の行事、学外との連携、ボランティア等、積極的な活動や主体的な参加が、学院と学生の明るさ、活気を育むと思えます。</p>

<p>基準 8 財 務</p>	<p>① 健全経営がなされていると思います。 ② 特に問題はないと思います。しかし、引き続き退学者の減少に尽力していただきたい。 ③ 土地を購入しましたが、財政状態の問題はありません。事業活動収支計算書の経常収支差額は黒字となっており、経営成績も良好です。 ④ 必要なことが公に開示されていれば、特に問題ないと思います。</p>
<p>基準 9 法令等の 遵守</p>	<p>① 学院の SNS ガイドラインを共有したいです。 ② 特に問題ないかと思ひます。引き続き、教員のコンプライアンス教育をお願いしたいです。 ③ 近年社会問題となっているランサムウェアへの対策が必要である。各端末でのセキュリティーソフト導入の有無について、改めて確認をお願いしたい。</p>
<p>基準 10 社会貢献・ 地域貢献</p>	<p>① 前向きに取り組みがなされていると思います。 ② 社会貢献、地域貢献とリハビリテーションが結びつく支援が必要である。専門職として機能回復の技術や知識だけでなく、本来のリハビリテーションを考え、人生の過ごし方や社会交流などの意義を今後のリハビリテーションに活かす体制を整えるとよいと思う。 ③ 新型コロナの関係で、教員の日常業務も変化し増加している。負担が一部の教員に偏らないように注意しながら、可能な範囲で社会貢献活動をお願いしたい。 ④ Covid-19 の影響により、地域社会のニーズに十分対応できないところもあると思いますが、Covid-19 が落ち着いた時には、また以前のようにご協力いただければと思います。 ⑤ 高齢者や障がい者関連での社会問題については、広く情報を発信していただき、地域、学院、学生が協力して、内包されている問題の解決を目指していただければと思います。そういった取り組みが、問題を広く社会に周知することになり、高校生にも認知されていくと思います。</p>
<p>その他の ご意見</p>	<p>① 専門学校と就職先や各病院のリハ職がもっと一緒にやれることがあるのではないかと感じています。学生にとっても、病院等の職員にとっても双方にメリットがあると思います。お互いに忙しい中ではありますが、今まで通りではなく、もっと先を見据えた新しい取り組みを是非一緒にやっていただければと思います。 ② 保育室があればよいかと思ひます。私が社医学に在学していた時も、赤ん坊を背負いながら授業を受けていても、泣き出すと廊下に出てあやしたりするので「今日も授業を全部聞けなかった」と言っていたのを思い出します。夜学である以上、高卒も狙いつつも、第二新卒や社会人だけでなく、シングルマザー（ファザー）のスキルアップに力を入れることで、定員の問題解決だけでなく、社会的貢献度が上がるのではないかと思ひます。 ③ コロナ禍で学校運営は極めて困難な1年であったと思ひます。学院でクラスターの発生がなかったこと本当に良かったと思ひます。先生方のご苦勞に改めて敬意を表します。 ④ Covid-19 の感染拡大により、地域の高齢者は長期間の外出自粛により筋力低下・認知面低下がみられ、介護予防・フレイル予防の重要性を感じております。今まで以上にリハ職の活用が求められていると思ひます。</p>